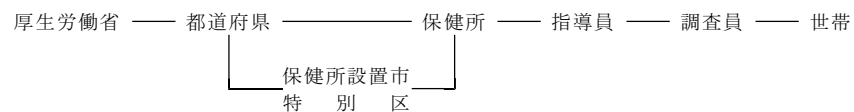


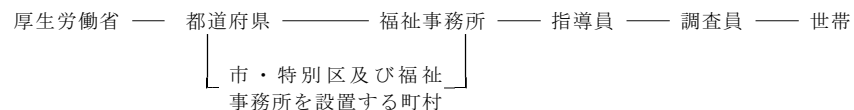
【誤（平成20年9月9日公表）】

6 調査の系統

- ・世帯票・健康票・介護票



- ・所得票・貯蓄票



7 結果の集計及び集計客体

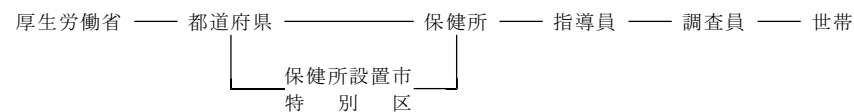
結果の集計は、厚生労働省大臣官房統計情報部において行った。
 なお、調査客体数、回収客体数及び集計客体数は次のとおりであった。

	調査客体数	回収客体数	集計客体数 (集計不能のものを除いた数)
世帯票・健康票	287,807世帯	230,596世帯	229,821世帯
所得票・貯蓄票	36,285世帯	24,578世帯	23,513世帯
介護票	6,165人	5,745人	<u>5,495人</u>

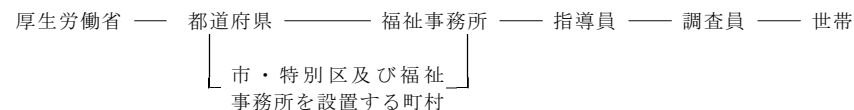
【正】

6 調査の系統

- ・世帯票・健康票・介護票



- ・所得票・貯蓄票



7 結果の集計及び集計客体

結果の集計は、厚生労働省大臣官房統計情報部において行った。
 なお、調査客体数、回収客体数及び集計客体数は次のとおりであった。

	調査客体数	回収客体数	集計客体数 (集計不能のものを除いた数)
世帯票・健康票	287,807世帯	230,596世帯	229,821世帯
所得票・貯蓄票	36,285世帯	24,578世帯	23,513世帯
介護票	6,165人	5,745人	<u>5,494人</u>

【誤 (平成20年9月9日公表)】

介護が必要となった主な原因をみると、要支援者では「関節疾患」が20.2%、「高齢による衰弱」が16.6%の順となっている。要介護者では「脳血管疾患(脳卒中)」が27.3%、「認知症」が18.7%の順となっている。(表22)

表 22 要介護度別にみた介護が必要となった主な原因の構成割合

要介護度	平成19年															
	総数	脳血管疾患(脳卒中)	認知症	高齢による衰弱	関節疾患	骨折・転倒	心疾患(心臓病)	パーキンソン病	糖尿病	脊髄損傷	呼吸器疾患	悪性新生物(がん)	視覚・聴覚障害	その他	不明	不詳
総数	100.0	23.3	14.0	13.6	12.2	9.3	4.3	2.8	2.7	2.5	2.1	1.8	1.5	6.1	1.2	2.5
要支援者	100.0	14.9	3.2	16.6	20.2	12.5	7.4	2.3	2.5	2.8	1.9	1.8	2.5	7.3	2.1	1.9
要支援1	100.0	12.5	2.5	16.0	18.0	12.9	8.1	2.5	2.7	2.4	2.0	1.5	3.3	10.6	2.7	2.3
要支援2	100.0	17.4	3.8	17.1	22.4	12.2	6.6	2.1	2.3	3.3	1.9	2.2	1.8	3.8	1.5	1.6
要介護者	100.0	27.3	18.7	12.5	9.1	8.4	3.1	3.1	2.8	2.4	2.3	1.8	1.1	5.3	0.9	1.0
経過的要介護	100.0	13.5	1.6	19.1	25.0	1.0	9.7	-	2.2	2.1	3.3	4.6	3.2	6.7	5.5	2.6
要介護1	100.0	21.4	16.2	16.6	14.2	8.0	2.8	2.0	3.5	1.0	2.9	1.8	1.7	5.1	1.3	1.5
要介護2	100.0	26.4	18.1	12.8	10.5	7.7	3.6	2.3	3.3	2.8	1.5	0.9	1.5	6.2	1.3	1.0
要介護3	100.0	27.1	25.2	9.4	5.1	9.5	3.4	4.8	2.2	2.5	2.6	1.4	0.9	5.0	0.3	0.6
要介護4	100.0	36.3	17.7	9.8	4.7	12.8	1.5	3.4	1.5	2.1	1.2	4.0	0.2	4.4	0.1	0.3
要介護5	100.0	35.5	18.0	10.4	4.2	4.3	2.9	4.8	3.2	5.2	3.3	1.5	-	5.0	0.2	1.5

注:「総数」には、要介護度不詳を含む。

【正】

介護が必要となった主な原因をみると、要支援者では「関節疾患」が20.2%、「高齢による衰弱」が16.6%の順となっている。要介護者では「脳血管疾患(脳卒中)」が27.3%、「認知症」が18.7%の順となっている。(表22)

表 22 要介護度別にみた介護が必要となった主な原因の構成割合

要介護度	平成19年															
	総数	脳血管疾患(脳卒中)	認知症	高齢による衰弱	関節疾患	骨折・転倒	心疾患(心臓病)	パーキンソン病	糖尿病	脊髄損傷	呼吸器疾患	悪性新生物(がん)	視覚・聴覚障害	その他	不明	不詳
総数	100.0	23.3	14.0	13.6	12.2	9.3	4.3	2.8	2.7	2.5	2.1	1.8	1.5	6.1	1.2	2.5
要支援者	100.0	14.9	3.2	16.6	20.2	12.5	7.4	2.3	2.5	2.8	1.9	1.8	2.5	7.3	2.1	1.9
要支援1	100.0	12.5	2.5	16.0	18.0	12.9	8.1	2.5	2.7	2.4	2.0	1.5	3.3	10.6	2.7	2.3
要支援2	100.0	17.4	3.8	17.1	22.4	12.2	6.6	2.1	2.3	3.3	1.9	2.2	1.8	3.8	1.5	1.6
要介護者	100.0	27.3	18.7	12.5	9.1	8.4	3.1	3.1	2.8	2.4	2.3	1.8	1.1	5.3	0.9	1.0
経過的要介護	100.0	13.5	1.5	19.1	25.0	1.0	9.7	-	2.2	2.1	3.3	4.6	3.2	6.8	5.5	2.6
要介護1	100.0	21.4	16.2	16.6	14.2	8.0	2.8	2.0	3.5	1.0	2.9	1.8	1.7	5.1	1.3	1.5
要介護2	100.0	26.4	18.1	12.8	10.5	7.7	3.6	2.3	3.3	2.8	1.5	0.9	1.5	6.2	1.3	1.0
要介護3	100.0	27.1	25.2	9.4	5.1	9.5	3.4	4.8	2.2	2.5	2.6	1.4	0.9	5.0	0.3	0.6
要介護4	100.0	36.3	17.8	9.8	4.7	12.9	1.5	3.4	1.5	2.1	1.2	3.9	0.2	4.4	0.1	0.3
要介護5	100.0	35.5	18.0	10.4	4.2	4.3	2.9	4.8	3.2	5.2	3.3	1.5	-	5.0	0.2	1.5

注:「総数」には、要介護度不詳を含む。

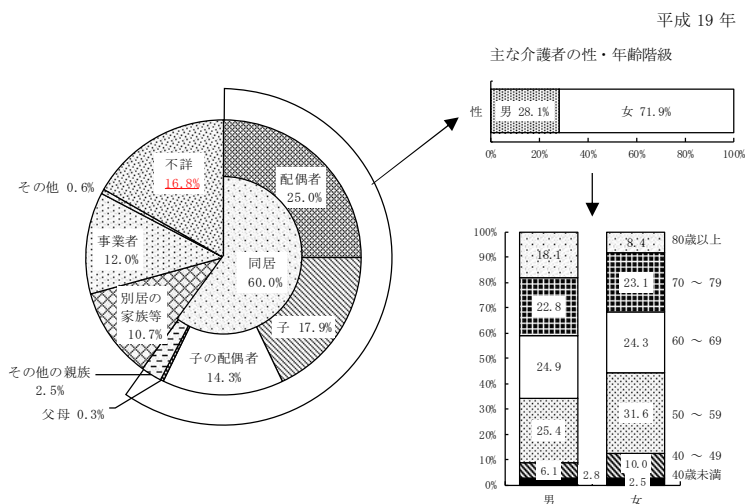
3 主な介護者の状況

主な介護者と要介護者等との続柄をみると、要介護者等と同居している家族等介護者が60.0%、別居している家族等介護者が10.7%、事業者は12.0%となっている。

同居している主な介護者の続柄をみると、「配偶者」25.0%、「子」17.9%、「子の配偶者」14.3%となっている。

また、同居している主な介護者を性別にみると、男28.1%、女71.9%と女が多くなっている。年齢階級別にみると、男女ともに「50~59歳」が25.4%、31.6%と多くなっている。(図22)

図 22 主な介護者と要介護者等との続柄及び同居の構成割合



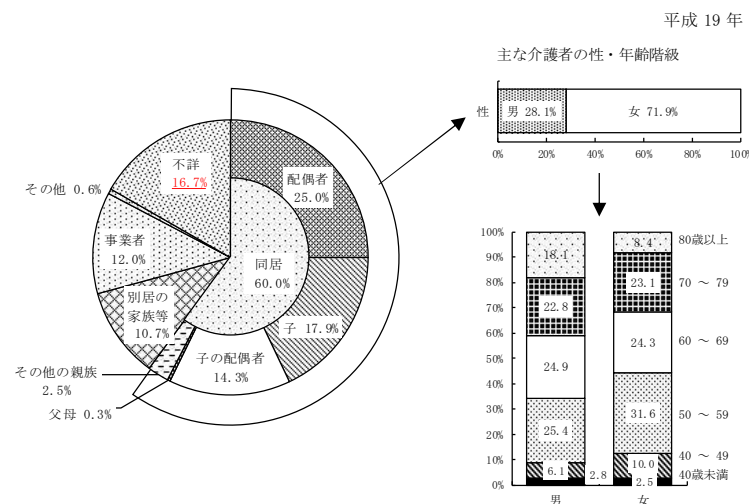
3 主な介護者の状況

主な介護者と要介護者等との続柄をみると、要介護者等と同居している家族等介護者が60.0%、別居している家族等介護者が10.7%、事業者は12.0%となっている。

同居している主な介護者の続柄をみると、「配偶者」25.0%、「子」17.9%、「子の配偶者」14.3%となっている。

また、同居している主な介護者を性別にみると、男28.1%、女71.9%と女が多くなっている。年齢階級別にみると、男女ともに「50~59歳」が25.4%、31.6%と多くなっている。(図22)

図 22 主な介護者と要介護者等との続柄及び同居の構成割合



【誤（平成20年9月9日公表）】

要介護者等と同居している主な介護者と要介護者等の組合せを年齢階級別にみると、「70～79歳」の要介護者等では、「70～79歳」の者が介護している割合が多く、「80～89歳」の要介護者等では、「50～59歳」の者が介護している割合が多くなっている。（表23）

表23 性・年齢階級別にみた同居している主な介護者と要介護者等の構成割合

同居している主な介護者の性・年齢階級	平成19年						
	総数	40～64歳	65～69	70～79	80～89	90歳以上	(再掲) 65歳以上
総数	[100.0]	[5.5]	[5.5]	[29.6]	[42.9]	[16.4]	[94.4]
40歳未満	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
40～49歳	2.6	6.9	9.0	2.6	1.3	2.4	2.4
50～59歳	8.9	3.2	5.3	16.7	6.6	4.0	9.2
60～69歳	29.8	40.4	7.5	13.4	44.9	23.8	29.2
70～79歳	24.5	33.8	50.4	14.9	16.7	50.1	23.9
80歳以上	23.0	12.2	23.1	44.1	14.0	12.0	23.6
男	11.1	3.5	4.8	8.3	16.4	7.3	11.6
40歳未満	28.1	45.1	35.1	29.4	27.5	19.3	27.1
40～49歳	0.8	3.1	2.9	1.0	0.3	0.2	0.7
50～59歳	1.7	2.2	0.6	3.8	1.0	0.1	1.7
60～69歳	7.1	12.0	0.6	3.5	11.0	4.3	6.8
70～79歳	7.0	19.8	9.2	0.8	7.6	11.3	6.2
80歳以上	6.4	7.6	18.7	14.3	0.7	2.5	6.3
女	5.1	0.3	3.1	6.1	6.9	0.7	5.4
40歳未満	71.9	54.9	64.9	70.6	72.5	80.7	72.9
40～49歳	1.8	3.8	6.1	1.7	1.0	2.2	1.7
50～59歳	7.2	1.0	4.7	12.9	5.6	3.9	7.6
60～69歳	22.7	28.4	6.9	10.0	34.0	19.5	22.3
70～79歳	17.5	13.9	41.2	14.0	9.1	38.8	17.7
80歳以上	16.6	4.6	4.4	29.9	13.3	9.5	17.3
80歳以上	6.0	3.3	1.7	2.2	9.4	6.6	6.2

注：「総数」には、要介護者等の年齢不詳、主な介護者の年齢不詳を含む。

【正】

要介護者等と同居している主な介護者と要介護者等の組合せを年齢階級別にみると、「70～79歳」の要介護者等では、「70～79歳」の者が介護している割合が多く、「80～89歳」の要介護者等では、「50～59歳」の者が介護している割合が多くなっている。（表23）

表23 性・年齢階級別にみた同居している主な介護者と要介護者等の構成割合

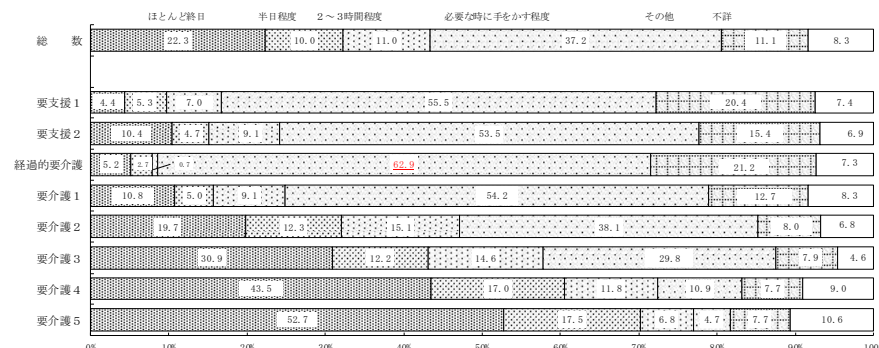
同居している主な介護者の性・年齢階級	平成19年						
	総数	40～64歳	65～69	70～79	80～89	90歳以上	(再掲) 65歳以上
総数	[100.0]	[5.5]	[5.5]	[29.6]	[42.9]	[16.4]	[94.4]
40歳未満	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
40～49歳	2.6	6.9	9.0	2.6	1.3	2.4	2.4
50～59歳	8.9	3.2	5.3	16.7	6.6	4.0	9.2
60～69歳	29.8	40.4	7.5	13.4	44.9	23.8	29.2
70～79歳	24.5	33.8	50.4	14.9	16.7	50.1	23.9
80歳以上	23.0	12.2	23.1	44.1	14.0	12.0	23.6
男	11.1	3.5	4.8	8.3	16.4	7.3	11.6
40歳未満	28.1	45.1	35.1	29.4	27.5	19.3	27.1
40～49歳	0.8	3.1	2.9	1.0	0.3	0.2	0.7
50～59歳	1.7	2.2	0.6	3.8	1.0	0.1	1.7
60～69歳	7.1	12.0	0.6	3.5	11.0	4.3	6.8
70～79歳	7.0	19.8	9.2	0.8	7.6	11.3	6.2
80歳以上	6.4	7.6	18.7	14.3	0.7	2.5	6.3
女	5.1	0.3	3.1	6.1	6.9	0.7	5.4
40歳未満	71.9	54.9	64.9	70.6	72.5	80.7	72.9
40～49歳	1.8	3.8	6.1	1.7	1.0	2.2	1.7
50～59歳	7.2	1.0	4.7	12.9	5.6	3.9	7.6
60～69歳	22.7	28.4	6.9	10.0	34.0	19.5	22.3
70～79歳	17.5	13.9	41.2	14.0	9.1	38.8	17.7
80歳以上	16.6	4.6	4.4	29.9	13.3	9.5	17.3
80歳以上	6.0	3.3	1.7	2.2	9.4	6.6	6.2

注：「総数」には、要介護者等の年齢不詳、主な介護者の年齢不詳を含む。

要介護者等と同居している主な介護者の介護時間を要介護度別にみると、「要支援1」から「要介護2」までは「必要な時に手をかす程度」が多くなっているが、「要介護3」以上では「ほとんど終日」が最も多くなっている。（図23）

図23 要介護者等の要介護度別にみた同居している主な介護者の介護時間別構成割合

平成19年

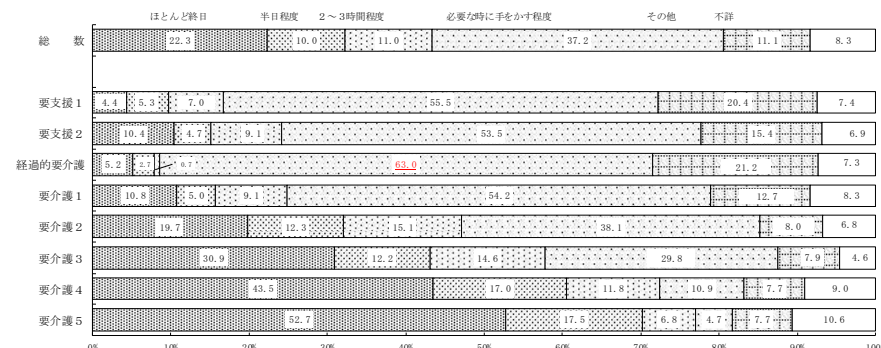


注：「総数」には、要介護度不詳を含む。

要介護者等と同居している主な介護者の介護時間を要介護度別にみると、「要支援1」から「要介護2」までは「必要な時に手をかす程度」が多くなっているが、「要介護3」以上では「ほとんど終日」が最も多くなっている。（図23）

図23 要介護者等の要介護度別にみた同居している主な介護者の介護時間別構成割合

平成19年



注：「総数」には、要介護度不詳を含む。

【誤（平成20年9月9日公表）】

5 居宅サービスの利用状況

要介護者等の5月中の居宅サービスの利用状況をみると、居宅サービスを1種類でも利用した者は76.4%で、世帯構造別にみると、単独世帯が85.2%で最も多く、三世帯世帯が75.4%、核家族世帯が71.1%の順となっている。

居宅サービスの種類をみると、単独世帯では、「訪問系のサービス」が77.8%と多く、「配食サービス」の割合も12.3%と他の世帯構造に比べて高くなっている。また、三世帯世帯では、「通所系のサービス」が54.4%となっている。（表24）

表24 世帯構造別にみた居宅サービスの利用状況別構成割合（複数回答）

利用の有無の居宅サービスの種類	総数	単独世帯	核家族世帯	平成19年			
				(再掲)夫婦のみの世帯	三世帯世帯	その他の世帯	(再掲)高齢者世帯
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
利用した	76.4	85.2	71.1	71.2	75.4	76.5	78.7
訪問系のサービス	58.4	77.8	52.9	52.7	50.7	54.3	65.6
通所系のサービス	42.4	29.8	39.4	39.4	54.4	47.9	34.9
短期入所サービス	10.0	2.5	6.6	6.8	16.7	16.3	6.3
小規模多機能型居宅介護	3.0	8.6	1.0	1.4	1.6	1.7	5.1
配食サービス	6.3	12.3	6.8	7.8	1.8	3.6	10.0
外出支援サービス	3.5	4.3	3.6	4.1	2.9	2.9	4.1
寝具類等洗濯乾燥消毒サービス	1.3	1.4	1.5	1.2	0.5	1.7	1.3
利用しなかった	23.6	14.8	28.9	28.8	24.6	23.5	21.3

注：「訪問系のサービス」には、訪問介護、訪問入浴介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、介護予防訪問介護、介護予防訪問入浴介護、介護予防訪問看護、介護予防訪問リハビリテーション、夜間対応型訪問介護を含む。

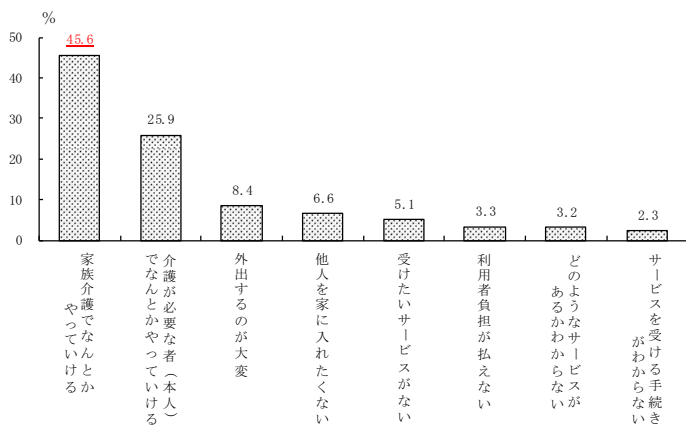
「通所系のサービス」には、通所介護、通所リハビリテーション、介護予防通所介護、介護予防通所リハビリテーション、認知症対応型通所介護、介護予防認知症対応型通所介護を含む。

「短期入所サービス」には、短期入所生活介護、短期入所療養介護、介護予防短期入所生活介護、介護予防短期入所療養介護を含む。

要介護者等の5月中の訪問系のサービス、通所系のサービス、短期入所サービス、小規模多機能型居宅介護を利用しなかった者の利用しなかった理由をみると、「家族介護でなんとかやっでいける」が45.6%と最も多く、次いで「介護が必要な者（本人）でなんとかやっでいける」が25.9%となっている。（図26）

図26 訪問系・通所系・短期入所サービス、小規模多機能型居宅介護を利用していない者の利用しなかった理由の割合（複数回答）

平成19年



【正】

5 居宅サービスの利用状況

要介護者等の5月中の居宅サービスの利用状況をみると、居宅サービスを1種類でも利用した者は76.4%で、世帯構造別にみると、単独世帯が85.2%で最も多く、三世帯世帯が75.4%、核家族世帯が71.1%の順となっている。

居宅サービスの種類をみると、単独世帯では、「訪問系のサービス」が77.8%と多く、「配食サービス」の割合も12.3%と他の世帯構造に比べて高くなっている。また、三世帯世帯では、「通所系のサービス」が54.4%となっている。（表24）

表24 世帯構造別にみた居宅サービスの利用状況別構成割合（複数回答）

利用の有無の居宅サービスの種類	総数	単独世帯	核家族世帯	平成19年			
				(再掲)夫婦のみの世帯	三世帯世帯	その他の世帯	(再掲)高齢者世帯
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
利用した	76.4	85.2	71.1	71.2	75.4	76.5	78.7
訪問系のサービス	58.4	77.8	52.9	52.7	50.7	54.3	65.6
通所系のサービス	42.4	29.8	39.4	39.4	54.4	47.9	34.9
短期入所サービス	10.0	2.5	6.6	6.8	16.7	16.3	6.3
小規模多機能型居宅介護	3.0	8.6	1.0	1.4	1.6	1.7	5.1
配食サービス	6.3	12.3	6.8	7.8	1.8	3.6	10.0
外出支援サービス	3.5	4.3	3.6	4.1	2.9	2.9	4.1
寝具類等洗濯乾燥消毒サービス	1.3	1.4	1.5	1.2	0.5	1.7	1.3
利用しなかった	23.6	14.8	28.9	28.8	24.6	23.5	21.3

注：「訪問系のサービス」には、訪問介護、訪問入浴介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、介護予防訪問介護、介護予防訪問入浴介護、介護予防訪問看護、介護予防訪問リハビリテーション、夜間対応型訪問介護を含む。

「通所系のサービス」には、通所介護、通所リハビリテーション、介護予防通所介護、介護予防通所リハビリテーション、認知症対応型通所介護、介護予防認知症対応型通所介護を含む。

「短期入所サービス」には、短期入所生活介護、短期入所療養介護、介護予防短期入所生活介護、介護予防短期入所療養介護を含む。

要介護者等の5月中の訪問系のサービス、通所系のサービス、短期入所サービス、小規模多機能型居宅介護を利用しなかった者の利用しなかった理由をみると、「家族介護でなんとかやっでいける」が45.7%と最も多く、次いで「介護が必要な者（本人）でなんとかやっでいける」が25.9%となっている。（図26）

図26 訪問系・通所系・短期入所サービス、小規模多機能型居宅介護を利用していない者の利用しなかった理由の割合（複数回答）

平成19年

